

對佛施設綱領

帝國政府、佛、ニテ決定スル上ハ之ニ基キ施設スヘキ
 綱領ヲ定メ、事ノ後急ト時機ノ當否トニ
 鑑ミ之カ實行ニ着手セントス蓋シ佛、ニテ對
 佛施設、將來彼我ノ關係如何
 願ミテ施設ス所ナカレハカラスニ其
 項モ亦豫メ定メ難シト雖モ其國防ト外
 政及經濟ト頗ル緊要ノ問題ニ属シ具
 今ノ時機ニ於テ着手スルニ必要トスヲ以テ

左に土細ヲ掲ケ決定シテ請ヒントス

一、防備ヲ全フスルコト

韓王内ニ我軍隊ヲ屯駐セシムルハ意ニ
我王防上必要ナルノミナラス帝王政府
ハ日韓議定書第ニ條ニ依リ韓
王ノ防禦及安寧維持ノ責任ヲ負
擔シタムモノナリ故ニ平和克復後ト
雖モ相当ノ軍隊ヲ同國要所ニ屯駐
セシメ内外不慮ノ變ニ備ヘシコト必要ニ
シテ平時ニ於テモ韓王上下ニ對シ我勢

力ヲ維持スルカ為メニ頗ル有用ナリトス

次ニ韓王内地及沿岸ニ於テ軍器上必

要ノ地域ヲ收用スルハ國防上欠クヘカラ

サル事ニシテ日韓協約ニ依リ既ニ韓

王ノ獨立及領土保全ヲ保證シタム以上

ハ之カ施行ニ任スル帝國政府ノ当然

ニシテ且ツ必要ナル權利トス

二、外政ヲ監督スルコト

韓王政府ハ日韓議定書第五條ニ

依リ該協約ノ趣意ニ違反スル協約ヲ

第三國ト訂立スル能ハスト雖モ其以外ノ事項
ニ関シテハ隨意ニ他ノ諸國ト條約ヲ締結
シ若シ各國人民ニ對シ各種ノ特權讓
與ヲ賦與スルヲ得シ然レニ韓 不當踞者
ハ誠心誠意國家ノ為ニ慮ルモノナク
威ハ黃白ノ為ニ或ハ自家ノ權勢ヲ維
持セシカ為メニハ如何ナル約束ヲモ敢テス
モノニシテ殊ニ宮中ハ是等陰謀ノ浦
藪ナカ故ニ若シ外政ヲ其為スガ儘ニ一
任セシハ闇黒裡ニ如何ナル危險ナル

事態ノ成立ヲ見ルヤモ料ルハカラス故ニ
適當ナル最近ノ機會ニ於テ韓 王政
府ヲシテ外國ト條約締結其他重要
要ナル外交案件ノ處理ニ關シテハ豫
メ帝國政府ノ同意ヲ要スル旨ヲ約セシム
ラ期ス
右ノ企畫遂行前雖モ仍ホ左ノ條ヲ以テ
外政ノ監督ヲ行フベシ
甲、外國ト條約若シ外國人ニ對スル特
權讓與ハ總テ外部衙門ヲ經由スベキ

モノトシテ陰謀ノ運動ヲ杜絶スルコト
外部衙門ニ一顧同官ヲ入レ裏面
ニ在リテ其政務ヲ監督指揮セシ
ムルコト而シテ該顧問ノ寧外至人ヲ以
テ之ニ充テ帝至公使監督ノ下ニ其
職務ヲ執ラシメシハ内外ニ対シ圓滑ニ
我目的ヲ達シ易カレシ

三、財政ヲ監督スルコト
精至行政ニ一トシテ改善ヲ要セサルモノナレ
ト雖モ若シ急激ニ改革ヲ行フトキハ上下

一般ノ反抗ヲ来シ空シク失敗ニ帰スルキカ
故ニ時機ヲ計リテ徐々ニ手ヲ下サンコト
ヲ要スルモ特リ財政ハ一日モ之ヲ等閑ニ
附スラ得ス何トシバ精至財政ハ目下既
ニ紊乱ヲ極メ内外人民共ニ其弊ニ苦シム
ノミナラス抑モ財政ナルモノハ百般行政ノ
基礎ナカ故ニ之ヲ整理ニ依リテ行政各
部ノ弊害ヲ匡正センコトハ施政改善
ノ實ヲ舉クニ於テ最モ便易ノ方法ナ
レバナリ故ニ可成速ニ我邦人中ヨリ

適當ノ顧問官ヲ不差當リテハ少ナクトモ
現今ヨリ以上財政ノ紊乱ニ至ラ防キ追
テ徵税法ノ改良貨幣制度ノ改革
等ニ着手シ遂ニ韓王財務ノ實權
ヲ我掌中ニ収ムラ期ス
韓王必財政紊乱ノ原因ハ素ヨリ一
レテ足ラサルモ軍隊ノ為ニ過當ノ費用
ヲ要スルコト其主タ一因ナリ現ニ昨年度
ノ豫算ヲ見シニ經常歳出總計九百
六十九萬七千元ノ内四百十二萬三千元

軍隊ノ費用ニ屬シ而シテ其兵數ハ一萬六千
ニ達スト云フ然ルニ將來韓王ノ防備
ハ我邦自ラ之ニ任スキヲ以テ韓王軍
隊ハ親衛隊ヲ除テ外漸次ニ其數ヲ
減セシムベシ

韓王ノ為メニ新ニ財源ヲ得係セテ我
利權擴張ノ目的ヲ以テ帝王政村管
理ノ下ニ韓王必ニ於テ食鹽煙草等ノ
專賣ヲ起サシムヘク而シテ其方法ハ直接韓
王政府ヲシテ之ヲ實行セシムヘキカ或ハ一個人

名義ヲ以テ特約ヲ結ビ之ヲ實行セシムル
カニ付キテハ尚溝充ヲ要ス

四、交通機關ヲ掌握スルコト

交通及通信機關ノ要部ヲ我方ニ
掌握スルハ政治上軍事上及經濟上
ノ諸點ヲ頗ル緊要ノコトニシテ就中交
通機關尤鐵道事業ハ極ニ重要
ノ骨子トモ云フヘキモノナルカ故ニ左ノ如ク順
序ヲ追フテ之ヲ實行セシムル肝要ナルハ
甲、京釜鐵道

本鐵道ヲ極ニ重要ナル線路ナルカ故ニ既定
ニシテ最モ重要ノ線路ナルカ故ニ既定
ノ計畫通り速ニ完成セシムルヲ要ス

乙、京義鐵道

本鐵道ハ黃海方面ニ於テ極ニ重要ナル
ヲ經貫シ京釜線路ト聯絡シテ極
半島ヲ一貫シ終ニ進シテ東清鐵道及
國外鐵道ト接続シ大陸幹線ノ一部
ヲ形成スヘキ重要ノ線路ニシテ同下既ニ
軍事上ノ必要ニ因リ軍隊ニ於テ其敷

設ニ着手セリ而シテ平和克復後ニ於テ
本鐵道ノ經營方法ニ付キテハ其時機
ニ臨ンテ韓至改付ト協議ス
丙、京元及元山ヨリ雄基灣ニ至ル鐵道
本鐵道ノ前記韓至經營線ラ中
央ニ於テ日本海方面ト聯絡セシメ
進ンテ豆滿江附近ニ至ルモノニシテ北邊
ノ防備上必要ノ線路ニ屬セリ尤モ本
線ニ急ニ敷設ニ着手スルノ要ナキモ權
利ニ及ビ國防上必要ナリトノ名義ヲ以テ

戰爭中ニ之ヲ獲得シ他ニカモ權利
ヲ得ルコトヲ豫防レ置クニ便宜トス

丁、馬山ニ浪津鐵道

馬山浦、鎮海灣ヲ扣、拂、必南端
ノ最良港灣ニシテ以テ京釜鐵道ヨリ
支線ヲ設ケ日所ニ聯絡スル軍事上
亦、經濟上極ニ有用ナリトス故ニ昨
年韓至鐵道會社ト内約ヲ結ビ本
線路敷設亦、營業ノ權ヲ間接ニ取
得シ先モ未ダ完全アリト云フヲ得ス
就テハ

世際該權利ヲ確實ニスルノ手取ヲ取
テ之ヲ傳車場敷地ノ如キ今日
測定シ置キ京産線路ノ完成ヲ俟テ
本線經營ノ手取ヲ考完スルコトス

五、通信機關ノ掌握スルコト

通信機關中首要ニ電信線ヲ我
方ニ於テ所有シ又、我管理ノ下ニ置クコト
ハ絶對的ニ必要ニシテ郵便事業モ亦
我利益ノ發達ニ伴ヒ向後益々擴張セ
ルヘカラス然レドモ如何ニシテ之ヲ排他國

有、通信機關ト油取セムヘキカ之併セテ
講究シ要スル問題アリトス蓋シ排他國
有、通信機關ハ極メ不完全ナル狀
態ニ存リテ收支モ亦甚シク相償不現ニ年
々三十万円内外ノ損失ヲ為シテアリ故ニ若
世儘ニ放棄セシムニ違ラニ財政上ノ困難ヲ
増大スルノミレテ一般公衆ノ利便ニ供ス
コト能ハス若シ又之ヲ改善シ一般ノ希望ヲ
充サントスハ勢ヒ我排他ノ衝突ヲ免ルカ
シ之ヲ要ス一五内ニ同種ノ機關二個獨

立シテ存在スルコト、經濟上及事務上兩者
共ニ不但不利ヲ感スヘキハ、理ノ賄易キ所
ナカ故ニ世問題ヲ解決スル最良ノ方
法ハ、輔必政府ヲシテ郵便電信及重
活事業ノ管理ヲ帝必政府ニ委託セシメ
帝必政府ハ本邦ノ通信事業ト合同
經理シテ兩者共通ノ一組織トナスニ存此
ノ如ク、臨時ニ於テ是レノ雙方ノ体系
モ統一ニ帰シ、向ニ政府自ラモ年々
巨額ノ損失ヲ免ルヲ得、若又存存國

ニシテ到底行ヒサレニ於テ、帝必政府ニ不得已
重要ノ線路ヲ選ビ獨立シテ自ラ經營ス
ル外ナラズ

六、拓殖ノ圖ルコト
甲、農業

輔必、於テ存存邦人ノ企業中、最モ有
望シモノハ農事ナリ、由來、輔必ハ農産
國ニシテ、專ラ食糧及原料ニ由ラ我國ニ供
給シ、我邦ニシテハ、工藝品ヲ彼ニ供給シ
來レリ、思フニ、今後、雜ニ兩者ノ經濟的乘

係ハ此魚則、上ニ發達セザルヘカラス具韓必
ハ土地、面積ニ比シ人口少ナク優ニ多數、
本邦移民ヲ容レ得キヲ以テ若シ我農
民多ク韓内地ニ入り込ミ得ルニ至ラバ
一方ニ於テ我起退セシ人口ノ為メニ移殖
地ヲ得他方ニ於テ我不足セシ食糧ノ供
給ヲ博シ所謂一舉兩得トナシベシ然レ
現時ニ於テハ條約上居留地外一里以
内ニアラサレバ土地ヲ賃借又ハ所有スル能
ハサレカ故ニ事實上内地ニ於テ田畑ヲ所

有スルモノアルモ其權利明確ヲ欠キ確實
ニ資本存家ニ不安ニ念ヲ抱キテ投資ニ
躊躇スルヲ常トス故ニ我農業家ノ為メ
ニ韓内地ニ於テ開放セシムル手續トシテ
左ノ二策ヲ取ルコトニスベシ

ハ官有荒地ニ付キテハ一個人ノ名義
ヲ以テ耕作及牧畜ノ特許若シ
委託ヲ受ケテ中央政府ノ管理ノ下ニ
相當ノ資格アリ我邦人民ヲシテ之ヲ經
営セシムルコト

有望之モノ少ナキカ如シ然レトモ今日迄未
タ十分ノ調査シテ遂々タシモノナキカ故ニ速
ニ之カ調査ニ着手シ其内殊ニ有理之
モノハ我官ニ收メ他ニ幾分ツ外五人ニモ
世利益ヲ享受セシメシテ斷ノ誅ヲ
避ケ彼等ノ好感情ヲ維持スルニ於テ
便宜ナリ

丁、漁業

漁業ハ農業ニ次キ勃玉ノ最モ有
利ニシテ事業ナリ然レニ目下我邦人カ

漁業権ヲ有スルハ道中五道ニシテ忠
清、黄海、平安、三道ハ尚区域外ニ在
右ハ以際之ヲ右三道ニモ擴張スル可
シ又一名ニ於テハ濫獲ヲ禁シ魚類ノ保
護ヲ固ク為シ漁ヲ相當ノ區歸シ後之
必要アリ